

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 進路も含めた卒業生を追跡調査する手法を策定し、実施する。	→追跡調査の実施（2013年度までに）	D	D	/	/	/

☆

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 在学生調査および卒業生の追跡調査については具体的な検討段階に至っていない。現在、2004年度入学生からの各種データ（入学した入試制度および序列、履修コース、成績〔平均点・GPA含む〕、複数分野専攻制(MDS)・海外研修などの学修プログラム参加状況、学籍異動状況、進路など)を整備中であるが、どのように連携し活用するか、あるいはそれをどの部内委員会で検討するか、今後の課題となっている。神学部の特色として大学院進学率が高いことから、大学院（特に本学大学院神学研究科）と連携した教育目標の成果調査にも配慮する必要がある。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 (説明) 在学生調査および卒業生の追跡調査については具体的な検討段階には至っていない。策定したディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を念頭におきながら、学士課程での教育成果を計ることを意図して在学生および卒業生の追跡調査を実施する必要があることは認識している。学位授与基準の適切性については策定したディプロマ・ポリシー、およびディプロマに至るカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）の検証も必要である。
その他	

《評価指標データ》

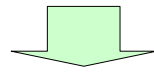
各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

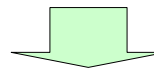
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	在学生調査および卒業生の追跡調査について未だ具体的な検討が開始されていない。
★小項目6.4.2	ディプロマ・ポリシーならびにカリキュラム・ポリシーの策定を受けて、それらに適応した「履修モデル」を再検討する。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	まずは既存のデータとしてどのようなものがあるかを把握し、次に新規にどのようなデータが必要かを検討し、調査項目の整理を実施する。作業の体制としてはまず、部長室委員会において検討を開始する。
★小項目6.4.2	2013年度の研究演習必修化、卒業論文導入(2010年度入学生から適用、学年進行により当該年度生が4年次となる2013年度から実施)に向けて、ディプロマ・ポリシーならびにカリキュラム・ポリシーに適応した履修モデルならびに履修指導の方法を構築する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○まだ成果としては表われていませんが、問題点は認識されていますので、今後の対応が注目されます。

【学内委員】

○小項目6.4.2の現状説明は、この項目の要素に対応した現状の説明になっていません。また、改善すべき事項の小項目6.4.2の記述は、教育内容および方法に関する内容ではないでしょうか。

○2010年度の時点で「取り組みが大変遅れている印象」との指摘を受けていますが、その後も検討が進んでいない模様です。在学生調査、卒業生の追跡調査について、早期に検討・実施されることに期待します。

○上述の検討について、6.4.1の現状説明に「どの部内委員会で検討するか課題」とあります。小規模学部の利点を生かせていないのではないのでしょうか。

○成果を測定することは大変難しいことですが、それを開発し検証することで、教育内容や方法などの検証も可能となります。早急な対応が求められます。

○小項目6.4.2については、現状における学位授与基準、手続きの適切性について説明された上で、課題などについて触れることが必要でしょう。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・成果の検証は難しい問題ですが、測定方法を確立され、検証されることに期待します。
 ・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも現在はどうであるのか、要素を視野に置きながらももう少しご説明をお願いします。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に向けている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★小項目6.4.2の現状説明について、2010年度にディプロマ・ポリシーを策定し、改めてそれにしたがった適切な学位授与が行われるように努めている。現段階において学位授与（卒業判定）は、各授業科目の成績評価・修得単位およびその合計によって行っているが、各々の学生のディプロマ・ポリシーに関する到達度は、各授業科目とカリキュラム・ポリシーおよびその行程にあるディプロマ・ポリシーとの関連性を強めることによって担保されている。各授業科目の成績評価・修得単位およびその合計という以外に、総合的な学位授与判定方法を仕組みとしては有していない。それゆえ、策定したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの検証をさらに徹底していくことが必要である。